



なかよしの木

校長 大野 和孝

今年度も2か月が経ちました。この時期は、1年間の教育活動を実りあるものにしていくための土台作りとなります。各学級、学年の担任は、子供たち一人一人に対する理解を深めていくとともに、学級や学年全体がまとまって落ち着いて活動できる環境整備に力を注ぎます。

子供たちは新学年の生活にも慣れ、子供同士のかかわりも活発となり、和気あいあいと過ごす様子が見られます。ひらまるンピック2025(運動会)、水泳授業、校外学習など子供たちが楽しみにしている教育活動も控えており、友達と協力して活動する中で、学級への所属意識や自己有用感を高めていきたいと考えております。

一方、時として一緒に過ごす中ですれ違いがあったり、友達関係を深めていく過程の中で意識的、無意識的に友達を傷つけてしまったりするようなことも起こりえます。こうした子供たちの内面に抱える悩みや困り感を丁寧にくみ取ることを通して、子供たち一人一人が安心して学ぶことができるという実感をもって、仲間を思いやる心、学級のことを大切にしようとする集団の一員としての意識を育んでいきたいと思えます。

先月の全校お話会では、「ありがとう」の言葉について子供たちと考えました。「ありがとう」の由来になっている言葉の意味や、日常の中での当たり前ではないことに気づく目、感謝の心、伝える態度が、笑顔で過ごすことにつながることを伝えました。決して特別な出来事が起きたときにだけ使う言葉ではなく、普段見過ごしてしまいがちな人との関わり合い、支え合いを「ありがたい」と感じる子供たちに育ってほしいと願い、話をしました。

また、今年度から全校で「なかよしの木」の取組をスタートしました。昨年度「上尾市いじめ防止子供サミット」で太平中学校区の児童生徒が話し合って決めた児童主体の取組です。友達に言われて心があたたかくなったことや、されてうれしかったことを書いて教室内に掲示します。「なかよしの木」が実りの多い木になるよう教職員も見守ってまいります。

